

ちょっと一言

がんの患者さんは、お体のきつさや息苦しさ、筋力の低下などから、今までできていたことが、少しずつ大変になることがあります。

そんな時、私達は患者さんに「何を大切にしたいか」を伺い、そのための体力温存を提案します。例えばご家族との時間を大事にするために、それ以外のところは私達がお手伝いをするとか、排泄はお部屋のトイレまで行きたいのであれば、車いすやベッドごとトイレに近づけてお手伝いをします。

人に自分をゆだねることは、とても勇気がいることです。患者さんの勇気にいつも感謝です。



お二人の60回目の結婚記念日に、手作りのドレスを奥様に着ていただき、ご家族でお祝いされました。ベッドのご主人も思わず拍手！！

美しい桜の季節も過ぎ、新緑の時期になりました。緩和ケア病棟の庭でも、シンボルの撫子の花が咲いています。最近、患者さんやご家族が花の苗を持ち込んで植えて下さる事も多く、ますます楽しいお庭になりました。草取りを頑張ります！



桜の花見



今年は福娘も登場しましたよ！



節分

緩和ケア病棟では節分、バレンタインデー、演奏会、お花見と季節ごとにイベントを行いました。



バレンタインデーもまた、とても楽しいイベントです。スタッフから患者さんにチョコプレートとメッセージを送るのですが、かなりのおせっかいで、奥様から患者さんへ、患者さんからご主人へ愛のメッセージをお願いする事もあります♡

病院の敷地には沢山の桜の木があり、今年も一斉に咲き誇りました。患者さんやご家族と一緒に、病室のウッドデッキや外でお花見をしました。桜の花は私達日本人にとって、何か特別なものと思えます。きっと、いろいろな想いや思い出があるからでしょうか、

編集・作成 緩和ケア認定看護師 尾崎昌子